

ABMC6・APSAO2017

*¹東京都健康長寿医療センター心臓外科,

*²国立循環器病研究センター生体医工学部

西村 隆*¹, 山岡 哲二*²

Takashi NISHIMURA, Tetsuji YAMAOKA



2017年10月25日から27日まで、インド・ケーララ州ティルヴァナンタプラムのApollo DIMORAにおいて「第6回アジアバイオマテリアル学会 (6th Asian Biomaterials Congress, ABMC6)」と「2017年度アジア・パシフィック人工臓器学会 (Annual Conference of The Asia-Pacific Society for Artificial Organs, APSAO2017)」が開催された(図1)。

ABMCは、二つの国際会議が融合して誕生した。一つは、関西のグループが1993年から日本・中国を中心に開催していた「極東生体材料シンポジウム (FESBM, 第4回目からはAsian Symposium on Biomedical Materials, ASBM)」, もう一つは、関東のグループが1997年から日本・韓国・台湾を中心に開催していた「アジア国際バイオマテリアルシンポジウム (Asian International Symposium on Biomaterials, AISB)」である(表1)。

2007年、アジアのバイオマテリアル研究を発展させようと、日本バイオマテリアル学会が中心となって両学会を統一し、第1回ABMCをつくばにて開催した。4年に1度開催される世界バイオマテリアル学会大会とともに、日本バイオマテリアル学会の公認国際会議と位置づけられている(表1)。その後、豪州も参画して設立されたAsia Biomaterials FederationがABMCの運営に当たっている。

一方、APSAOは日本人工臓器学会の主導により2013年に創設された、アジア・環太平洋地域における人工臓器治療・開発の発展を目指す国際学会である。2013年に横浜で開催された「第5回国際人工臓器学術大会 (5th International Federation for Artificial Organs, IFAO)」, 「第



図1 合同学会の開会式風景

51回日本人工臓器学会大会」合同開催の際に行われた第1回の学術集会以後、2015年に韓国、2016年に中国で学術集会が開催され、徐々に広がりつつある。

今回のABMC6も、参加者350人超、発表演題数200件超と盛会であった。国内外のバイオマテリアル系の学会は、人工臓器(医療デバイス)、薬物送達システム(drug delivery system, DDS)、再生医療を主なターゲットとしているが、近年、再生医療関連研究、特に(幹)細胞研究の割合が増加し、反対にマテリアル系の研究の割合が減少しているのは、国内のバイオマテリアル研究と同じ傾向である。流行もあるが、臨床化を目指したマテリアル研究のさらなる活性化が望まれる。

また、ABMC6の一室を借り切って同時に開催されたAPSAO2017も、本邦や韓国、中国からの研究発表のみならずインドの研究者からも多数の発表があり、各国間の背景や状況の違いについて多くの意見が出され、共同での研究や開発について前向きな討議がなされた。インド企業からの血液ポンプや人工弁の展示もあり、企業にとっても大きなチャンスが生まれる場となっていた。

■ 著者連絡先

東京都健康長寿医療センター心臓外科

(〒173-0015 東京都板橋区栄町35-2)

E-mail. takashi_nishimura@tmghig.jp

表1 ABMCのあゆみ

Far-Eastern Symposium on Biomedical Materials (FESBM)			Asian International Symposium on Biomaterials (AISB)		
Asian Symposium on Biomedical Materials (ASBM)					
1993年	1 st	FESBM 北京			
1995年	2 nd	FESBM 京都			
1997年	3 rd	FESBM 成都	1997年	1 st	AISB 能美
1999年	4 th	ASBM シンガポール	2000年	2 nd	AISB 濟州島
2001年	5 th	ASBM 香港	2002年	3 rd	AISB 台北
2003年	6 th	ASBM 成都	2004年	4 th	AISB つくば
2005年	7 th	ASBM 濟州島	2006年	5 th	AISB 厦門(アモイ)
Asian Biomaterials Congress (ABMC)					
	2007年	1 st	ABMC	つくば	
	2009年	2 nd	ABMC	シンガポール	
	2011年	3 rd	ABMC	香港	
	2013年	4 th	ABMC	濟州島	
	2015年	5 th	ABMC	台北	
	2017年	6 th	ABMC	ティルヴァナンタプラム	
	2019年	7 th	ABMC	ブリスベン(予定)	

大会後に行われたAPSAO理事会では、APSAO2018はJeng Wei先生が大会長として2018年10月26日に台北で執り行われることが決定した。日本人工臓器学会が先導して進めているアジア・環太平洋地域の人工臓器の発展のため

にも、本邦からの多くの参加が期待されている。

本稿のすべての著者には規定されたCOIはない。